

立ち寄りスポット

聖徳太子御廟
Mausoleum of Shotoku-Taishi
(Prince Shotoku)



推古天皇の摂政として、十七条憲法や冠位十二階の制定、遣隋使の派遣などの進んだ政治制度や文化を取り入れ、政治改革を図った聖徳太子は、日本書紀によると推古29年(621)に亡くなり、磯長の地に葬られました。聖徳太子御廟は径約50m、高さ約10mほどの円墳で、内部は精巧な切石を用いた横穴式石室です。太子と母君の穴穂部間人皇后、妃の膳部大郎女の3人の棺が納められていると伝えられることから、三骨一廟と呼ばれています。

用明天皇陵
Yomei-tenno-ryo Kofun



第31代用明天皇は、『日本書紀』によれば、磐余の池上の陵に葬られますが、その後、推古元年(593)に「河内の磯長の陵」に改めて葬ったと記録されています。

用明天皇陵は、東西約65m、南北約60m、高さ約10mの方墳で、周囲には幅約7mの空濠を巡らせており、この濠の外堤までを含めた規模は、一辺約100mに達する巨大な規模を有しています。墳丘規模や形は、蘇我馬子の墓と言われる石舞台古墳とよく似ています。

敏達天皇陵
Bidatsu-tenno-ryo Kofun



第30代敏達天皇は、572年に即位され、死後、母君の石姫皇后の墓である磯長の陵に葬られたと『日本書紀』は記しています。

敏達天皇陵は全長約93mの磯長谷では唯一の前方後円墳で、周囲には空濠を巡らせていました。内部については全く分かりませんが、横穴式石室が採用されていると考えられています。また、周辺から埴輪が採集され、これらから古墳時代の後期前半に築造されたと考えられています。

推古天皇陵
Suiko-tenno-ryo Kofun



日本で初めての女帝である第33代推古天皇は、聖徳太子を摂政にし、大陸の隋との交渉によって先進的な政治制度や文化、芸術などを積極的に吸収し、政治の改革や仏教文化を中心とした飛鳥文化を花開かせました。推古天皇陵は、東西に長い三段築成の長方墳で、内部には2つの横穴式石室があると考えられています。太子町には、同様に1つの墳丘に2つの石室をもった古墳として、西約500mに位置する葉室塚古墳や南東約200mの二子塚古墳が知られています。

孝徳天皇陵
Kotoku-tenno-ryo Kofun



大化革新後に即位した第36代孝徳天皇は、革新に功績のあった蘇我倉山田石川麻呂らを政権に登用し、改新政治を推し進めました。しかし中大兄皇子らと不仲となった天皇は、難波宮で白雉5年(654)、孤独のうちに亡くなられ、大坂磯長陵に葬されました。竹内街道沿いに位置する陵は、別名「うぐいすの陵」と呼ばれる直径約30mの小さな円墳です。かつて陪塚から出土したと伝えられる、海獣葡萄鏡という鏡が知られています。

竹内街道
Takenouchi-kaido



大陸外交の玄関口だった飛鳥京を結ぶ道「大道」は613年に推古天皇によって整備された日本最古の官道です。そのうちの堺市から葛城市に至る約30kmの道が竹内街道です。古代は遣隋使や遣唐使が行き來した外交の道、中世には橿原市の今井町と堺市を結び発展を支えた経済の道、近世には伊勢参りに関わる信仰の道として利用され、その歴史的価値から、2017年には日本遺産に認定されています。

叡福寺
Eifukuji Temple



聖徳太子御廟を守護するために、推古天皇によって僧坊を置いたのが始まりとされ、奈良時代に聖武天皇が大伽藍を整備したと伝えられる叡福寺は、聖徳太子信仰の靈場として発展しました。織田信長の兵火によって、一時は全山が焼失しましたが、豊臣秀頼の聖靈殿再建に始まり、順次伽藍が再興されました。太子のご偉徳を偲んで行われる毎年、4月11日の大乗会式は、多くの参拝者でにぎわいます。

西方院
Saihoin Temple



聖徳太子の死後に、その乳母であった月益姫、日益姫、玉照姫(それぞれ蘇我馬子、小野妹子、物部守屋の娘とされる)の3人が、剃髪して仏門に入り、太子の墓前にお堂を建立して冥福を祈ったのが寺の始まりと伝えられます。寺の南側の墓地内には、この三尼公の御廟と伝えられる3基の石塔が残されています。本尊は、聖徳太子作と伝わる阿弥陀如来像と惠心僧都作と伝わる十一面觀音菩薩像です。

二子塚古墳
Futagozuka Kofun



推古天皇陵の南東約200mに位置する二子塚古墳は、方墳を2基つなぎ合わせた双方墳という珍しい形式を有しています。東西の墳丘それぞれに、ほぼ同形同大の横穴式石室があり、石室の使用石材の隙間や表面に漆喰を充填塗布しています。また蓋の縄掛突起が退化したカマボコ形を呈する家形石棺がそれぞれの石室に納められています。古墳の終末を考えるうえで重要な古墳です。

小野妹子廟(墓)
Mausoleum of Ono-no-imoko



科長神社南側の小高い丘の上に、古くから小野妹子の墓と伝えられる小さな塚があります。妹子は、推古天皇の時代に遣隋使として、当時中国大陸にあった隋という大国に派遣された人物です。妹子が聖徳太子の守り本尊の如意輪觀音の守護を託され、坊を建て、朝夕に仏前に花を供えたのが、華道家元池坊の起りになったとされることから、現在、塚は池坊によって管理されています。

大道旧山本家住宅
Daido-kyu-Yamamotoke Jutaku



日本最古の官道と言われる竹内街道の沿道にたたずむ古民家で、茅葺きの切妻屋根の両端を本瓦葺きとする大和棟の形態をよく残しています。大和と堺を結ぶ街道沿いの歴史的空间を特徴づけるものとして「国登録有形文化財(建造物)」となっています。周辺には道標や伊勢燈籠などが残されており、かつて経済活動や巡礼にと人々が行き交った当時の面影を今に伝えています。

二上山
Mt.Nijo



らくだの背のようなふたつの頂を持つ山で、「万葉集」には「ふたかみやま」という名で詠まれるなど昔から親しまれてきました。山麓からは石器の材料になったサヌカイト、石棺や礎石に利用された凝灰岩が採取され、考古学的にも重要な位置を占めています。また、雄岳山頂には、天武天皇の御子、大津皇子が葬られています。